

2025 年度（令和 7 年度）第 1 四半期 事業報告書

2025 年度（令和 7 年度）第 1 四半期の事業概要について以下の通り報告します。

シニア楽農園 会長 磯田 公夫

■全体報告

① シニア楽農園の農地の契約

5 月に 2026 年～2029 年度（4 年間）の土地契約を締結。

4 月の総会で 2026 年度からの土地賃料について会員の下承を得たあと、一般参加者への説明を実施した。すでに報告したとおり、3 月に 2025 年～2029 年度の協定書 2025 年度契約書への署名捺印は終了している。

② 夏時間（サマータイム）

今年度は開始・終了時期および作業時間について、グループ毎の判断とした。

猛暑対策を重要課題として昨年から検討しており、作業時間の短縮や作業中止などを決めるための参考情報として暑さ指数計を購入した。各グループに暑さ指数を測定してもらい、測定結果をまとめ、今後の暑さ対策の参考とする。

③ 区役所の区政推進課からの「都筑区キャリア教育プログラム（インターンシップ）」への協力依頼

昨年度も同じ依頼があり、昨年は 8 月 23 日（金曜日）に実施、C グループが対応した。

今年度は 9 月 11 日（木曜日）を希望されており、B グループで対応する。昨年度同様、農園の説明と案内、農作業体験のサポート、役員とのインタビューなどを行う予定。詳細は、区政推進課との間で今後決定。

④ みどり保育園と茅ヶ崎南保育園からのいもほり遠足の依頼

昨年度同様、上記 2 園のいもほり遠足を受け入れる予定。日程については今後調整する。

⑤ 葛が谷地域ケアプラザの障害者と家族の受け入れの依頼

葛が谷地域ケアプラザに通う障害者の農作業体験を希望されており、家族が同伴する。

11 月 1 日（土曜日）午後を希望（予備日 11 月 8 日）。参加人数は未定。

人数が決まってから、詳細を検討する予定。

■各グループの総務報告（現状と課題等）

◆A グループ

- ① 前年度からの継続者 19 名（会員 10 名、一般継続者 9 名）に新規参加者 4 名が加わり 23 名でスタートした。
- ② 昨年同様 3 班編制にして、新規参加者を分散して配置した。
高齢の新規参加者 2 名については、安全に作業ができるよう支援が必要である。
また 3 ヶ月ごとに班メンバーを変更して、参加者同士が偏り無く交流できるよう配慮していく。
- ③ 緊急時連絡先の紙は、これまで総務が保管していたが、今年度から他のグループ同様、各人が名札の中に入れて農作業時必ず携帯するよう改めた。

- ④ 6月2日（月）よりサマータイムを実施している。具体的には「8時作業開始、9時30分～10時作業終了」を9月末まで継続する予定である。
- ⑤ 今年度より導入された暑さ指数計を参考に、メンバーへの注意喚起や、危険と判断した場合は作業時間を短縮するなど、その場に応じて対応していく予定である。
- ⑥ 昨年同様7月から9月まで、水やりと夏野菜の収穫を8班の当番制で行う予定である。

◆B グループ

- ① 新規参加者3名、継続者9名、会員11名の23名でスタートした。
- ② 新規参加者3名のため1班、2班、3班に振り分け、指導にあたっている。
- ③ 天候不順により4/3は4/5に、5/22はAMからPMに変更して作業を行った。
- ④ 5/29より暑さ指数計の導入を行い、データ採取し熱中症対策に役立てることとした。
- ⑤ サマータイムは6/5より開始し、作業開始時間を1時間早め8時からにした。
- ⑥ 6/12から、ひとり500円を徴収し、休憩時にアイスクャンデー等によりクールダウンを行っている。

◆C グループ

- ① 新規参加者7名、継続者12名の19名体制でスタートした。金曜日が第1希望でなかった新規参加者1人が予期していなかったと4月の予定が合わず、初回とあと1回欠席した事例があった。
- ② 4月18日の作業に24年度卒園したOB（参加者3名）を招待して農作業を行った。アドバイスを受けながら、昨年度から育てていた春大根等を収穫し、土産にした。
- ③ ダンボールの劣化で、手指のけがをしたケースがあり、古いものをどうするか検討を要する。
- ④ 雨天により土曜日、日曜日に延期になった作業日は、欠席者が多くなり、作業に影響し、終了が30分以上遅くなった。今後暑さ対策にも関連するので解決していく必要がある。
- ⑤ サマータイムについては、暑さのピークが7月から9月になることが想定されるため、今年度は6月20日から実施し、暑さ対策として時間短縮等を行うこととする。

■農作業第1 四半期の振り返り

1. 天候、設備等

- ① 例年と比べ、気温が高く、雨も多く、各グループとも野菜の収穫、生育とも順調であった。
- ② 倉庫周りの滑り止め金網がかなり傷んでおり、めくれて危険な箇所もあったため、6/23（月）に張替を行った。

2. 作付け、その他作業等

- ① サツマイモ苗を、5/5（月）に3グループ分（紅はるか3×90本、紅あずま3×80本、合計510本）購入し（中山の三好種苗店より購入）、Aグループは購入当日に畑に定植、B,Cグループは当日に仮植えし、それぞれの作業日に定植した。各グループ分とも順調に生育している。
- ② 紅あずまの苗は、出荷量の減少から値段が高騰している。来年から購入量のバランスを検討したい。
- ③ 区役所から提供されたゴミ袋の目的外使用が話題となった。ゴミ袋は希少なもので、原則ゴミ袋に限った利用とすることを再度確認した。

3. 収 穫

主要品目	Aグループ	Bグループ	Cグループ
春大根	○	○	○
サヤエンドウ	スナップエンドウ○	蔓無し絹サヤ◎	スナップエンドウ◎
玉ねぎ	◎	◎	◎
葉物	ノラボウナ○	◎	春キャベツ○、 サンチュ○
その他	ニンジン△、中カブ△、 ニンニク×	ニンニク○	ニンニク◎

(◎：例年以上 ○：平年並み △：やや悪い ×：不作)

4. 発芽/生育状況

主要品目	Aグループ	Bグループ	Cグループ
ジャガイモ	○	○	○
里芋	○	○	○
サツマイモ	○	○	○
葉物 キャベツ	空芯菜○	キャベツ、水菜◎	ほうれん草○
その他	長ネギ○、枝豆○、 インゲン○	ズッキーニ◎、みょうが◎	山芋○、長ネギ△、 ナス、ピーマン等◎

(◎：例年以上 ○：平年並み △：やや悪い ×：不作)

5. 各グループの特記事項

◆Aグループ

- ① 春大根はやや小ぶりであったが例年並みの収穫となった。玉ねぎは出来が良く、大きさもそろった十分な収穫ができた。
- ② 初めて取組んだスナップエンドウは春先からの育成が順調であったが、実が付きかけた頃カラスの被害に合いネットで防鳥対策を強化しながら収穫に結び付けた。
- ③ ノラボウナは2月下旬から4月末迄収穫できた。冬場の育成作物としては今後も検討していきたい。
- ④ ニンジンは、昨年に続き発芽率悪く、発育も遅かったが収穫はなんとかできた。ニンニクはサビ病のため球根が十分育たなかった。
- ⑤ 今年度も暖かな日が続き、今春に作付した野菜は発芽・生育が順調で、概ね問題なし。
- ⑥ つるなしインゲンのサヤのつきが例年並みに良く、十分な収穫ができている。
- ⑦ また、保存していたサトイモ、落花生の発芽も問題なかった。
- ⑧ 昨年始めたミニトマト、オクラ、ズッキーニの夏野菜に加え、ナスにチャレンジしているが、病害虫には注意していきたい。
- ⑨ グループ作業日以外に、夏場の水やりとともに収穫も行うことを当番制にして今年も取り組むこととした。

◆Bグループ

- ① 蔓無しスナップエンドウは発芽が悪かったので本数が少なく収穫も少なかった。その代わりに蔓なし絹サヤは発芽も良く収穫量も多かった。
- ② 空豆はアブラムシの被害も少なく順調に育ち、収穫量も昨年より少し多かった。

- ③ 気温が高かったせいか葉物の成長が早く、次週に収穫予定を早めて収穫したので作業が多くなり残業の連続だった。
- ④ 水菜、春菊、小松菜の成長が早くて大きくなりすぎた感じだった。
- ⑤ ピーマン・甘長唐辛子・ナスの育苗は数人で分担した。苗は大きくならなかったが定植は上手くいったと思う。
- ⑥ ニンニクは病気も出ずに全部収穫し綺麗だった。大きい玉は種ニンニクとして農サポで保管。
- ⑦ カボチャは育苗が遅れ、定植に間に合わなくなったので苗を購入。大玉とミニの混栽となってしまったので、大玉の吊るしが難しいかも知れない。
- ⑧ スイカは昨年同様に4月末に植えた購入苗が枯れてしまい、5月中旬に購入した苗は今の所順調に見える。来年は、苗は5月になってから買った方が良いかも。
- ⑨ 今年初めて、大玉トマトとミニトマトにキュウリを植えてみた。メンバーで管理が可能か試してみたい。もし上手く出来れば来年は少し増やしても良いかも知れない。
- ⑩ ジャガイモの葉に、かなり虫がいて捕殺に追われた。竹酢液や木酢液を散布したが効果は分からない。
- ⑪ 里芋とサツマイモは順調に見える。
- ⑫ 空心菜と青梗菜と長ネギの畝に初めて発酵鶏糞を使ってみた。15kgで120円と格安だし物も良い。成長に問題無ければ他の作物にも使って行きたいと思う。
- ⑬ 4月からはタイニーは使わずにセルカにしている。それで良いのかは少し迷っている。

◆c グループ

- ① 夏野菜のナス科の種まきについては、昨年の反省（2月の早播き、低温で発芽不良）を踏まえ、3月中旬にセルトレイ播きにし、かつ、苗ヒートマット併用で発芽適温（20～25℃）を保持した育苗管理としたところ、概ね、1～2週間で発芽し、5月連休明けに畑に定植することができた。
- ② ナス科作物については、例年栽培していたミニトマトは、1週間ごとの管理では、手間のわりに思うような収穫ができていないと判断し、今年は、ミニトマトをナス（cでは初栽培）に変更し、ナス科作物はピーマン、甘トウガラシ（シシトウ）の3種とした。市販の苗よりも現時点では小柄ながらも生育は順調と思われる。
- ③ 毎年ニンニクのサビ病に悩まされてきて、今年も収穫近くなって発生したが、収穫への影響はさほどなく、ここ数年の内では最も出来が良い収穫が得られたと思われる。
- ④ スナップエンドウは、つるなし品種を選択、収穫の手間を考慮し、昨年の2条植から1条植に変更し栽培したところ、4月下旬から5週連続で、大量の収穫を得ることができた。
- ⑤ スナップエンドウについては、野鳥（特にヒヨドリ）対策として、テグスと一部網目の細かい（2cm程度）園芸ネットを併用していたが、テグスのみの部分に野鳥の食害が目立つようになり、4月に畝全体を防鳥ネット（網目4.5cm）で囲ったところ、それ以降の野鳥の食害はほぼ防止することができた。
- ⑥ 春キャベツは、11月4週にセルトレイ播き、1月2週目の畑定植で、種袋に記された種まき時期（9月末～11月半ば）よりやや遅い種まきのためか、結球が遅れ気味で収穫が心配されたが、5月連休まで収穫を待ったところ、思う以上の結球となり十分満足できる収穫となった。
- ⑦ 玉ねぎは、9月3週にプランター7台に、筋蒔き2条で種まきし、育苗担当者2名が自宅で育苗、11月4週に畑に定植、5月末から収穫を始めたが、球根も大きく育ち、大量収穫となる見込みである。
- ⑧ サツマイモ苗の植付の際、畝にワラと米ぬかを入れることで、土中のチッソ分を吸収し、蔓ボケ防止に効果があるとの情報を得て、今回サツマイモ3畝のうち1畝で、その方法を試みている。

■ 親睦・交流 第 1 四半期活動報告及び第 2 四半期計画

◆第 1 四半期の活動報告

月	全体行事及び各グループ共通行事	各グループ独自の親睦行事
4 月	<u>1.新旧親睦交流担当者引継ぎ</u> グループ企画に回数のノルマ無し <u>2.新人歓迎会の実施</u> 各グループの企画力で実施 A:崎陽軒弁当 B:権米衛おにぎり C:わっぱ弁当	A グループ 新人歓迎会 4/14 22 名参加 B グループ 新人歓迎会 4/10 23 名参加 C グループ 新人歓迎会 4/19 19 名参加
5 月	<u>5/27 第 1 回講演会・親睦会実施</u> 講師：都筑消防署 係長他 3 名 講演：「どんな時に救急車が必要？病気やケガの予防策」～心肺蘇生・AED・止血法・熱中症対策について～ アンケート結果：総合的に満足。継続希望 救急車を呼ぶ手順は、親睦交流案を消防署がチェック後、総務にて作成済み	講演会参加人数詳細。講演会後各グループで親睦会実施。（ ）内は親睦会出席人数 A グループ 21 名（13 名 内 OB2 名） B グループ 10 名（4 名） C グループ 17 名内 OB3 名 （16 名内 OB1 名） アンケート結果は各グループにフィードバック予定（8 月中）
6 月	<u>ファミリーデーの企画実施</u> 日頃の楽農園活動を家族に体験頂き理解を深める活動。農作業サポーターに協力頂いて、ジャガイモの収穫を主体に実施	ファミリーデー A グループ 収穫祭企画 6/22（日） B グループ 6/29（日） C グループ 6/28（土）

◆第 2 四半期の計画

月	全体行事及び各グループ共通行事	各グループ独自の親睦行事
7 月 8 月	<u>グループ毎に交流企画の推進</u>	各グループにて企画検討中
9 月	<u>第 2 回講演会実施予定 9/18（木）</u> 講師：生涯教育アドバイザー 加藤明彦様 講演：仮題「横浜の成り立ち」	講演会終了後、各グループで懇親会実施予定

■ 会 計

(以下割愛)